

## 平成30年度神戸市ソーシャルビジネス推進委員会

■日 時：平成30年11月28日(水) 14時～16時

■場 所：神戸市役所1号館17階 南会議室

■委 員：加藤恵正（兵庫県立大学政策科学研究所教授）、飛田敦子（CS 神戸理事）、黒子真寸美（神戸市産業振興財団創業・新事業支援部長）、石原淳（生活協同組合コープこうべ執行役員）、西川欣伸（尼崎市経済活性化対策課長）、西岡努（尼崎市経済活性化対策課主事）、番野智行（特定非営利活動法人エティックソーシャルイノベーション事業部プログラム・マネージャー）

■神戸市：重真理子・武藤紘明・森保奈央（市民協働課）、小嶋新（協働コーディネーター/しゃらく）

■内 容：

### 1. 開会

- －事務局より新委員の紹介を行う。（石原委員・西川委員・西岡委員・番野委員）
- －事務局より加藤委員長に対して委員長の指名を行い、他の委員の承認を得る。
- －委員長ご挨拶

### 2. 委員間の情報及び問題意識の共有

### 3. 神戸市からの報告（14:25～14:35）

- （1）KOBE ソーシャルビジネスマーク認証
- （2）神戸市ソーシャルビジネス推進助成
- （3）ソーシャルビジネスセミナー
- （4）ソーシャルビジネスの認知度向上に向けた広報
- （5）神戸ソーシャルブリッジ
- （6）ソーシャルビジネス推進事業の政令指定都市、近隣市の実施状況（平成30年度）

### 4. ソーシャルビジネス支援策について

#### －尼崎市

企画財政局で担当していた事業を、経済環境局で担当することにより、創業支援に力を入れていくという方向性になった。

#### 【委員発言】

尼崎市では、女性の起業家が偶然生まれ、男性では絶対に発想しないものを作った。これまでにマーケットにならなかった事業を女性が提案し、それが社会性に結びつく。一方で、経済環境局として尼崎経済にどれだけのインパクトを与えていくかは今後の課題。その辺の変化を、ソーシャルビジネスを通して市民に見てもらうことが大事だと思う。

#### －特定非営利活動法人エティック

#### 【委員発言】

リーダーをどう育てて応援していくかが活動の軸になっている。高齢化などで社会の変化のスピードが速い中で「この仕組みがあれば万事解決」というものはなく、今必要なものと10年後必要なものは違うという中で、そこに対応していけるようなリーダーを増やしていくことが大事だ。

**【委員発言】**

生協として既に行っている事業の中から、新規事業に結び付けながら話を聞いていた。手法から考えるべきか、それとも地域の中で何が起きているのかから入っていくべきかを考える必要があると感じた。

## 5. 意見交換

一事務局よりソーシャルビジネスの定義付けとソーシャルビジネス推進施策の今後の方向性を相談したい旨伝える。

**【委員発言】**

ソーシャルビジネスの定義を決めるというより、施策をどう進めるのかが大事な事だと思う。神戸市としてどんな事業を支援したいのかである。神戸市としてこんな定義のソーシャルビジネスを支援したいと言ったほうがわかりやすく、それを押し出したほうが良い。定義については永遠の課題だと思う。

**【委員発言】**

ソーシャルビジネスの要素は一般のビジネスにも入っている。それを広義に捉えるのか、狭義に捉えるのか一度整理したほうが良いと思う。

**【委員発言】**

市民参画でやっているということは、受益者収入だけではなく、寄付や助成金など多様な資金源を使ってやるというほうが、バランスとしていいのではないかな。

**【委員発言】**

社会問題自体グラデーションがある。創業支援をやる場合は、ビジネスにソーシャルの要素もあったり、ソーシャルビジネスという立ち位置から来るひともいるので、うまく窓口で拾いながら、縦割りにならないようにうまく連携していかないといけない。

## 6. 閉会